



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2023年04月24日 第1115号「週刊五十嵐レポート」

戦略の欠如

4月11日付日経新聞、「企業倒産3年ぶり増加」という記事。東京商工リサーチが発表した2022年度全国倒産件数は前年度比15%増の6880件と3年ぶり増えた。実質無利子・無担保の「ゼロゼロ融資」の返済が本格化、物価高や人手不足も追い打ちとなり、3月単月では前年同月比4割増と異例の伸び。

4月13日付朝日新聞、「介護施設3割倒産の可能性」という記事。物価や光熱費が高騰するなか、介護施設などの約3割で廃業や倒産の可能性があることがわかった。介護サービスは、国が決める公的価格で報酬が支払われるため、事業者は価格が転嫁できない。人員削減や賞与の減額を強いられるケースも広がり経営に行き詰まる事業者が出てくる恐れが出ている。「このままでは数年で事業の廃止や倒産の可能性がある」と答えた事業者が27.4%となった。

本当だろうか？介護事業者の経営者に聞いてみた。

経営者曰く、「以前は赤字経営だったが、直近1年は黒字化になり経営が安定してきた。確かに取り巻く環境は厳しいと言われ、同業者の事業所撤退や閉鎖をよく聞く。一方当事業所がなぜ利益を出し続けているか考えてみた。経営の仕組みを改善した(地域戦略に沿って、営業地域を狭めた。送迎コストの削減)。デイサービスでは、飲食代や遊戯・工作代を顧客から徴収するようになった(顧客に保険外の部分で価格転嫁できた)。今までスタッフには全員同じ作業をさせていたが(非効率)、スタッフの特性に合わせ役割分担し、適材適所に配置し、生産性が高まり、時間的余裕が生まれ、営業できるようになった。今まで見学者ゼロ、新規顧客ゼロだったのが、見学者が増え、その中から新規顧客が出始めた」。「大手は事業所を統廃合して、一箇所に事業所(中心地)を集約する動きがある。我々が営業している所は中心地から外れている。大手はいなくなった。後は零細事業者だけ、当事業所にとって地域1位になれるチャンス」。

帝国データバンクでは多くの倒産を「不況型倒産」と呼んでいる。違和感を感じる。不況型ではなく、「戦略の欠如型倒産」である。多くの中小企業は「戦術」が経営だと思っている。「戦略」で経営は大きく変わる。

ちょっと
気になる出来事

4月21日付日経新聞、「AI Impact 人間の優位、創造性に」という記事。

生成人工知能に使われる大規模言語モデルの登場で時代は「AI1.0」から「AI2.0」に変わった。(AI2.0の主役である)大規模言語モデルは世界中のデータで訓練した一つの巨大な「脳」のようなもの。「Windows」や「アンドロイド」などの基本ソフトの出現より大きなプラットフォーム革命といえる。

人間に残された優位性は創造性や分析能力、複数の専門的な知見を統合して推論する能力になる。感情や人と信頼関係を結ぶコミュニケーション能力もAIで再現するのは難しい。

上手く使えば自らの能力を高められる。例えば、チャットGPTに私の論文を読み込ませたうえで応用研究案を聞くと、考えたこともない画期的なアイデアが示される。教員や学生には「傍観せずに変化を先取りして」と呼びかける。チャンスととらえて、新しいビジネスを作ったり学術の方向性を打ち出すべき。受け身ではなく積極的に世界をリードしてほしい。

なるほど、1000号を超えた「五十嵐レポート」を読み込ませてみよう。どういったアイデアが出てくるか楽しみ。



一口メモ
知識

中庸(ちゅうよう)

「中庸」は、「囚(とら)われなく、その時に適切な」という意味。

行動に出るべき時に出る、控えるべき時は控える。

自分の地位や立場が危うくならうとも、進むべき時であれば進み、退くべき時であれば、退く。時には悲しみ、時には喜び、時には烈火のごとく怒る。

軋轢(あつれき)を避け、波風を立てないように、常にほどほどの加減を保とうとすることが中庸の精神かという、そうではない。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

